

平成27年度 教育課程にかかわる活動の現状と課題

部長 樋口 広栄

1 教育課程にかかわる活動の動向

【上越地区】

- 上越市では、上越カリキュラムの実践指定モデル校である宝田小学校と三和中学校の実践に学び、自校の教育課程を見直す機会とした。
- 柏崎市刈羽郡では、2部構成の教育講話研修会を開催。1部では、防災士の講演を受け、正解のない「クロスワードゲーム」から防災意識の高揚を図った。2部では、講話「歴史を通して人権問題を考える」を通して、差別の現状と解決に向けた研修を行った。
- 糸魚川市では、5つの育てたい力を掲げ、「ジオパーク学習の充実」を通してふるさと糸魚川への愛着形成を図っている。学習交流会、副読本や資料の作成・活用などが実践されている。

【中越地区】

- 長岡市三島郡では、「学習指導改善調査」協力校である関原小学校と栃尾東小学校の研究実践に学ぶ研修会を開催し、自校の実践に生かす機会を設けた。
- 加茂市では、「教務主任会」を通して、各校の取組紹介や情報交換を行い、教育課程の見直しを図っている。南蒲原郡（田上町）では、「田上の12か年教育」を策定し、具現化に向けて緊密な教職員の連携を図っている。
- 燕市西蒲原郡では、運用が本格化する「校務支援システム」の研修会を2回開催し、その中で郡市規模で統一・調整すべき教育活動を整理した。
- 魚沼市では、「温かい学級づくり支援事業」に取り組み、井口小学校・堀之内小学校の2校が研究発表会を開催し、実践を公開した。

【下越地区】

- 五泉市では、「教務主任会」を通して、学校評価を生かした教育課程づくりの工夫について情報交換し、自校の教育活動の改善に生かしている。
- 佐渡市では、「教務主任会」を通して、教務主任の職務に関する情報交換を行う中で教育課程の編成と実施について研修を深めた。

2 教育課程にかかわる活動の課題

〈活動内容について〉

次期学習指導要領改訂に向け、平成27年8月に中央教育審議会は論点整理を発表し、「アクティブ・ラーニング」の導入、新たな評価法の工夫、「カリキュラム・マネジメント」などを提言している。

この論点整理は、教育現場に対して、新たな授業改善、学級経営、学校経営への転換を求めた。一方、それに呼応するように授業づくり・学校づくりの改善に取り組む学校も全国的に出現している。

当然のごとく、こうした改善の方向性は教育課程の編成に色濃く盛り込まれることとなり、すでに新教育課程は始まっているとも言える。今後、新教育課程の編成にかかわる実践報告が期待される。

〈組織について〉

教育課程部が未組織であったり、主たる報告者が教頭・教務主任であったり、各郡市の実情は異なる。新教育課程の編成期を迎え、実情を踏まえつつも組織の見直しを検討し、活動の充実を望む。